



2010.07.06 (Tue) - 08.31 (Tue) 観察期間  
元洋菓子工場×ミツバチの巣×食虫植物  
極めてエコなお作法で場所を演出いたします。

# ウツボカズラ、

## ニホンミツバチを救え。

日本からミツバチがいなくなる。08年夏以降、ハチの失踪や大量死が危機感を持って報じられている。ここ「芝参道ガトー」でも全く同じ現象が2年続けて起きていた。5月から6月にかけて、昼でも暗く夕方には北窓の光が鈍く床を照らすその一角にハチが大量死している様はちょっとしたホラーみたいで、ほうきで集めると小山ができた。ハチは死んでいるか弱っていて、飛びとるをほとんど見ない。うむ、これはどうした現象か。

ハチの駆除業者に調査を依頼したところ、天井裏におよそ3年モノのニホンミツバチの巣を発見、その脚には建物外壁を覆う白い花、芳香性のツル植物・テイカカズラの花粉をつけていた。巣は「蜂蜜がとれる」ほどよく育ち、密集したハチの羽音が天井裏に響いていた。どうやら巣別れの時期で、新しい女王蜂の誕生をきっかけにして新しい巣を求め、室内で一番明るい北窓めがけて大集団で移動し、外へ出ようとして出られずに力尽きたということらしい。窓際での体温上昇が激しく体力を消耗した可能性も。

検証：ミツバチの巣を撤去せず、薬剤を使わず、食虫植物で夏場のノースリープ撮影が可能か否か。

コンセプト

ハチの突然死には諸説あるが、次の3つの要因とその複合型が有力視されている。①農薬、②寄生ダニの大発生、③海外伝染病に伴う女王蜂の輸入禁止。ミツバチ不足は養蜂家やミツバチを媒介とした受粉に頼る果物や野菜の栽培農家に大打撃を与え、政府は異常事態への緊急対処が捗らない。その最中、絶滅が危惧され野生の放浪癖を残すニホンミツバチが、都心の元洋菓子工場だった廃屋の天井裏で人知れず根付いてハチミツを生成していたとは愛おしくはならないか。また、都心での生態調査にならないか。

8月にダンス・アーティスト集団「群々(むれ)」の場所使用を控え、当初はハチの巣撤去が薬剤噴射を考えた。しかし取壊しが決定している建物で巣の撤去は所有者にとってメリットがなく、薬剤の使用は夏場の締め切った部屋で演じるダンサーの健康状態が心配だし、分蜂したハチは死んでいる。

## ウツボカズラってどうよ。温室廃墟の実験。

梅雨時や夏の集中豪雨で室内に水溜りができる高温多湿帯。無論、虫に悩まされることになる。そこで、熱帯アジアに分布する食虫植物で形がキュートなことで観葉植物としても愛されるウツボカズラを飼うことにした。真夏の風でも日陰の間接光しか届かず澁んだ空気の「温室」で、本当にウツボカズラは育つのか、虫を減らしてくれるのか、実験と観察の始まりだ。さらに廃墟プランナーとして、皆様が写真を撮りたくなる場所に演出できるか、モデルが露出の多い夏服で撮影ができるかを検証する。企画終了後に結果として、養蜂農家さんとの意義あるコネクションによってハチの巣が有効に生かされれば幸いである。なお、生きたミツバチは飛来する時期を過ぎた為、捕獲しないと思うのでご安心とご了承を。(企画者/新藤)

# 始めました。



物件データ **芝参道ガトー** <http://www.ryookitansa.com/koujou/> [交通] 三田線「芝公園」駅A4出口。地上に出たらお電話ください。03-6662-5350

企画概要

企画名：「芝参道ガトー」
所在地：23区内 場所非公開
築年数：約50年
設計：不明
施工：不明
規模：不明(図面なし・実測による)
構造：木造2階建(一部S造)+外階段
用途：元洋菓子工場

<b>plan-1</b> ウツボカズラでインスタレーション
2010.07.15 /制作・記録/領域探査デザイン
<b>plan-2</b> ノースリープでファッション撮影
2010.07.17 11:00-15:00/カメラマン 長谷鮎美
<b>plan-3</b> 群々/「静かな日」ダンスパフォーマンス
2010.08.20-21/公開記録撮影 全5パターン

領域探査デザイン 中古スケルトン賃貸普及プロジェクト

企画制作/領域探査デザイン [www.ryookitansa.com](http://www.ryookitansa.com)  
目黒区目黒2-11-14 大島ビル53号  
tel/fax 03-6662-5350  
shindo@ryookitansa.com

2010.07.13